

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
教務部	教科指導	(1) 学習習慣の確立	3	①②自発的に学習に取り組むためには、学習の必要性を生徒自身が認識する必要がある。タブレットを活用し、課題を提出させることで、教員側は把握しやすくなるので、積極的に活用する必要がある。また、進路実現との関連性を意識させる具体的な方策(進路ガイダンスや教育相談など)をより充実させることが、長期的には学習活動への改善につながるといえる。 ③図書たよりや朝読書の期間を通し、読書への興味を高めるように取り組む。 ④資格取得を中心に家庭学習の習慣づけをより意識させる。
		(2) 基礎学力の定着と向上	3	①②観点別評価を意識し、様々な角度から評価を行い、生徒の理解度に合わせた授業展開をしていく。 ③教員同士の情報交換を充実させた上に、生徒へのフィードバックを行う。学年会・生徒への教育相談等を利用して、個々の学習状況への具体的なアドバイスをする。 ④昨年同様、生徒への読書の働きかけに加え、担任や教科担当にも図書館を利用していただく機会を増やしていく。
生徒指導部	生徒指導	(3) 生徒との信頼関係の構築	3	①生徒理解が生徒支援と発展していけるように、個に応じた対応に努めていく。 ②③学校行事などをはじめ、色々な場面で生徒自身が考え、企画し、実践できるような取組を模索していく。職員がそれを支えるような形ができていくと良い。 ④生徒指導における柱となる部分であり、気を抜くことなく全職員で取り組んでいく。
		(4) 基本的な生活習慣の確立と集団生活の規律遵守	3	①見届け指導などをベースにして、状況に応じて適宜指導することができている。②自ら元気にあいさつをできる生徒が多い。場に応じたあいさつをより意識させる。③全職員で声かけや見届け指導が概ねできているが、頭髪指導など指導の意思統一が必要な部分もある。
		(5) 交通安全指導の徹底と事故・違反の未然防止	3	①②大きな事故や違反が起きなかったことは交通安全指導の成果だといえる。外部からの交通関係の苦情等についても生徒・職員に周知し、安全意識と行動改善に努めることができている。
		(6) 保護者・地域との連携	3	①学校公式インスタグラムなど、本校の各種活動の発信が積極的になされている。 ②出水特別支援学校との交流会など地域の関係機関と情報交換を行った。 ③校外ボランティアに積極的に応募する生徒も見受けられた。
		(7) 不登校・いじめ問題への支援体制	3	①②係会で情報を共有出来ており、担任団とも連携しながら、個に応じた対応ができている。経過報告等についても逐次職員に周知できている。 ③関係職員で協力しているが、生徒個々の問題が深いこともあり対応が難しい。

進路指導部	進路指導	(8) 進路意識の高揚	①進路ガイダンスや講習等で情報の提供を行い、進路相談を踏まえた上で、生徒一人ひとりが自ら考え行動し真剣に取り組むようになった。 ②1学期中は、担任会を月に2～3回実施して担任間の連携をとりながら、生徒の社会理解や職業理解を深め進路を決定することができることができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通しての、進路指導を計画し実施する。 ・進路と担任、および担任間の連携を密にしている。
		(9) 職業観・勤労観の育成	①インターンシップを実施するにあたり、事前に個別面談を行い生徒の職業適性や将来の就職先を十分に検討させることができた。 ②進路ガイダンスを年6回、各学年に応じた内容で実施することができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、2学年と協力しながらインターンシップを実施していく。 ・ガイダンスの内容・回数・実施方法を綿密に検討する。
		(10) 進路実現	①担任を中心に適宜個別面談を実施し、生徒の希望や保護者の意向等を踏まえて、生徒の適性に応じた進路指導を行うことができた。 ②コロナ渦もすぎ、自由に往来ができるようになり、生徒の希望に応じた職場開拓・定着指導を実施することができた。 ③職業安定所やキャリアガイダンスなどの関係機関と連携し、情報を共有しながら進路指導を図ることができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使用して、履歴書を作成したり、入社試験を実施する会社も出てきているので、対応を行う。 ・求人数が多く、就職先を迷う生徒がいる。生徒が求める職種とのミスマッチを防ぐために、より適切な面談等が必要である。
保健部	保健指導	(11) 生徒の健康管理	①健康診断は日程変更もなく実施することができた。視力・歯科の受診率が微増した。 ②手洗いうがいなど感染予防を注意喚起し、CO2モニターを利用し環境調べを実施した。	3	<ul style="list-style-type: none"> ①受診率向上のため、各担任団や、部活動と連携を深めていく。 ②県内や出水市内でのインフルエンザの発生状況を示したり、マスク着用などの基本的な予防を継続したりする。
		(12) 生徒の体力づくり	①体育の授業や体育祭など積極的に運動に取り組んでいた。 ②昼休みに活動する生徒が多く見られた。	3	①②運動部活動への加入推進と体育の授業における取組を工夫し、体力テストの数値も参考にしながら、体力向上に努めたい。
		(13) 安心安全な環境づくり	①安全点検を毎月行った。 ②避難訓練を全職員の協力でスムーズに行うことができた。	3	①安全点検後の取組を事務室と連携して行う。 ②今年度は消防署の指導の下、避難訓練を行うことができた。継続していきたい。

工業科	工業教育	(14) 教科指導の充実	①進路を念頭に、授業との関連を図り、取り組むことができた。評価については今後も見直していく。 ②専門の特性を生かし、知識・技術の充実が図られた。	3	・早めの情報提供と進路先の研究をおこない、専門科目の知識の習得や資格取得にむけて働きかける。 ・評価について、各科見直しを行い、引き続き改善していく。
		(15) ものづくり教育	①座学と実習・課題研究を関連付けて、ものづくりへの興味・関心を引き出すことができた。 ②ものづくりの継続的な指導や、技術の伝承がなされていた。	4	・実習や課題研究などでは、ものづくりに対する興味・関心を持って取り組み、座学との関連づけを行い、総合的に学習をしていく。 ・放課後やイベント作品を利用して、継続的に技術・知識の習得に努めた。
		(16) 資格取得への取り組み	①資格試験の情報提供を行い、適宜補習を行うことが出来た。 ②資格への興味・関心に差があり、取り組みが薄くなってしまった。	3	・資格取得者数が減ってきているので、進路先との関連づけやものづくりへの興味・関心を引く手立てが、今まで以上に必要である。 ・補習の在り方を働き方改革に合わせた時間の取り方を模索していく。
		(17) 各種行事への参加	①中学校などへの出前授業や奉仕活動を通じて、地域への貢献やつくる喜びを体現していた。 ②産業祭・工作教室・専門高校フェスタへの参加で、工業の取り組みを知らせることが出来た。	4	・イベントの参加、近隣学校への奉仕活動を増やし、出水工業の取り組みや「生きる力」を育む機会、地域への取り組みの発信を増やしていく。
関連分野	全般	(18) 社会に貢献する人材の育成	①あらゆる活動で、徹底した学習指導や生徒指導を行うことができた。さらなる主体性の向上が必要。 ②礼節は好調であり、遅刻者数も昨年度より激減してきた。来年度も効果的な指導が必要である。 ③ものづくりや資格取得には積極的に取り組んでいた。マナトレなどの効果を分析する必要がある。 ④将来を見据えた、個別の指導を展開することができた。自己管理能力を身に付けさせることが急務。 ⑤統一した取組がなく、指導と評価の一体化の効果を発揮するための手立ては喫緊の課題でもある。	3	①生徒たちが状況をよく見て、思考・判断して、主体的に行動できる適切な指導を行う。 ②あらゆる場面で徹底させるところを、教師が見逃さずに生徒に接する機会を大切にする。 ③マナトレの取組が、基礎学力の定着に繋がっているのか検証や分析、実施の検討を行う。 ④生徒個別の対応ができるように、組織が個に適した指導の確立のための情報共有を行う。 ⑤指導と評価のPDCAサイクルを確立させ、個々に応じた指導が可能なシステムを検討する。
		(19) 教育環境の整備	①ICT活用のための研修も増やし、タブレットを活用した授業が増えており、授業の質も高まった。 ②清掃や環境整備に関する意識の涵養が今年度は徐々に向上されてきた。さらなる徹底が必要。 ③毎月の安全点検は確実に行うことができた。生徒に施設の正しい管理の意識を持たせる指導が必要。	3	①タブレットを活用する意識を向上するためにも、業務改善として使う仕組みを検討する。 ②校内の教育環境を整える意識を生徒に醸成させるためにも、清掃作業の質を上げる。 ③小さなところや見えないところまで目を配り、危機管理の意識をもって、確認等を行う。
		(20) 情報セキュリティポリシーの遵守	①文書の割振は的確に行われ、各担当者で文書に関する整理や管理、保管は徹底されている。 ②生徒情報等は校務支援システムで管理し、紙媒体でも鍵のかかる箇所適切に保管している。 ③情報漏洩やウイルス侵入事例もなかった。情報セキュリティ研修への取組への意識は並である。	4	①可能な限り、文書管理ラベルをファイルに貼るようにして、文書を適切に保管する。 ②生徒に関する情報が掲載された紙媒体はできるだけ配付しないように工夫する。 ③情報漏洩に関する事例が相次いであり、他人事と思わぬように意識することが肝要である。
		(21) 服務規律の確保と資質の向上	①県内での不祥事の事例や法改正をもとに職員への研修や服務規律の厳正確保の指導ができた。 ②時間外勤務が月45時間を超えるケースもあり、さらに効率の良い勤務管理を検討する必要がある。 ③全国教員研修plantも導入され、研修に対する意識が高まり、研修履歴を残していく雰囲気がある。 ④今年度は研究授業が多く、授業研究も含めて他の授業を見る機会に恵まれたことは今後につながる。	4	①毎月のメッセージや標語等も含めて、常に服務規律と向き合うような取組が必要である。 ②週に一度の定時退庁日を推進して、業務改善を促すなど、再度フォローアップする。 ③教育センターの短期研修への参加増進を早いうちから呼びかけ、意識の向上を目指す。 ④相互授業参観の計画立案で終わらず、お互いに授業の質を高め合う意識が必要である。